

「f-wave」とは、

fは、female-女性、
friend-友、
freedom-自由、
future-未来、そして
f-強く、を意味し、

waveは、波を表します。
f-WAVEは、社会環境の変化の
波を誌面を通じて伝え、女性が生
き生きと暮らせる未来をめざす
コミュニケーション誌です。

f-wave



特集1 男女共同参画社会基本法 ～超カンタンに理解できる裏ワザ～

特集2 市長インタビュー ～あきる野の未来を語る～

社会基本法



超カンタンに理解できる裏ワザ

男女共同参画社会基本法が、1999年6月23日に成立、施行されました。

「えっ、それ何？なんだか難しそう…」そこで、基本法のしくみを *f・wave* 流にわかりやすく、カレーの作り方にたとえて考えてみました。

みなさんも身近なところから、我が家なりのスパイスを加えた男女共同参画社会カレーを作ってみませんか？

基本法のしくみ

基本理念

- ①男女の人権の尊重
- ②社会における制度等についての配慮
- ③政策等の立案及び決定への共同参画
- ④家庭生活における活動と他の活動の両立
- ⑤国際的協調

男女共同参画社会をつかっていくための5つの基本理念を打ち立てています。そして、国、地方公共団体には、その理念のもとに、施策をつくり実施するよう、また、私たち国民には、みんなで協力して、新しい社会づくりをするよう定めています。

責務

国

基本理念を踏まえた施策（積極的改善措置を含む。）の総合的な策定・実施の責務

地方公共団体

国の施策に準じた施策及び区域の特性に応じた施策の策定・実施の責務

国民

男女共同参画社会の形成に寄与するように努める責務

施策の基本となる事項

- ・ 政府の男女共同参画基本計画の策定の義務
- ・ 都道府県男女共同参画基本計画の策定の義務
- ・ 市町村男女共同参画基本計画の策定の努力義務
- ・ 法制上又は財政上の措置
- ・ 年次報告等
- ・ 施策の策定等に当たっての配慮
- ・ 国民の理解の促進
- ・ 苦情の処理等
- ・ 調査研究
- ・ 国際的協調のための措置
- ・ 地方公共団体及び民間の団体に対する支援

男女共同参画社会の形成

男女共同参画社会：男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ共に責任を担うべき社会

基本法は、道しるべ

大阪では、初めての女性府知事が誕生しました。国会では、橋本聖子議員の産休を巡り、いろいろと動きがあるようです。少しずつ日本も変わってきています。

しかし、「男は仕事、女は家庭」といったような性別による役割分担意識は、まだ根深く残っています。少子高齢化など、私たちの生活をめぐる状況が変化していく中で、こうした固定的な考えにとら

基本法を活かすのは私たち

われずに、職場で、学校で、地域で、家庭で、それぞれの個性と能力を発揮できるような社会づくりが必要となってきました。基本法はその21世紀の新しい社会づくりの道しるべです。そして、その道の先には、みんなが主役の社会があるのです。

基本法は、あくまでも枠組みです。これに基づいて、法律や施策

が進められています。その中身は、私たちが充実させていくことになります。どういう社会、どういう地域を創っていくのか、その鍵が基本法の5つの理念です。行動計画の主体は市民だという意識をもつて、女性の視点を大切に、一人ひとりの人権が尊重され、命が大事にされ、共に助け合っていく社会をつくるための法的根拠が、基本法です。男女共同参画社会を形成する道具として使いこなしてこそ、基本法を活かせるのです。

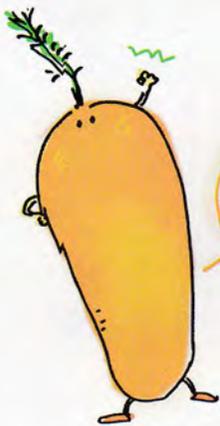
男女共同参画

5つの基本理念

f・wave 流 「基本法」カレーの作り方

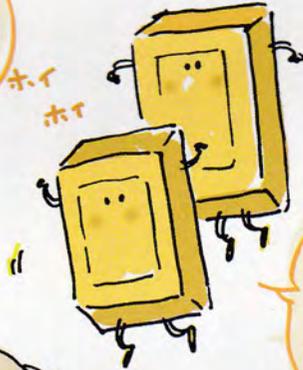
材料（基本理念）

- ①肉 ②カレールー ③にんじん
- ④玉ねぎ ⑤じゃがいも



③にんじん

人口の半分は女性です。女性の大臣・議員どんどん増やし、女性の声を広げよう



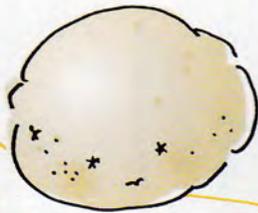
②ルー

あんな仕事、こんな仕事いろいろな可能性試してみたい。「女だからできない」「男だからダメ」と決めつけないで



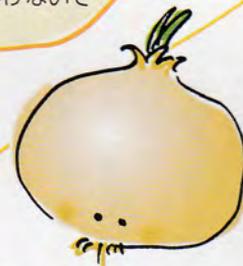
①肉

軽い気持ちのセクハラや妻への暴力は人権無視の犯罪です



⑤じゃがいも

男女共同参画社会をめざすは世界の流れ。国際社会の一員として協調、連携しましょう



④玉ねぎ

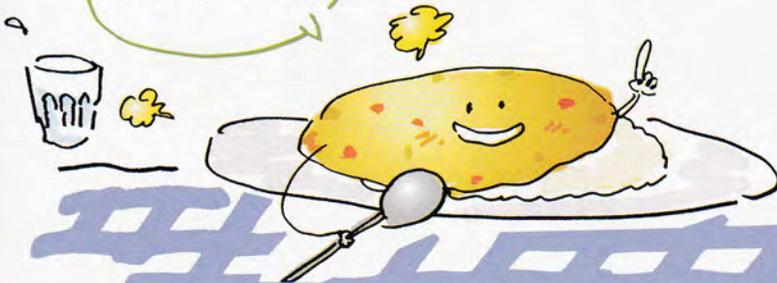
仕事も家庭も地域活動もどれも大切男も女も共に頑張ろう！



国・地方公共団体は、カレーのレシピをつくる必要がある

(※あきる野市ではレシピとして「あきる野女性プラン」をつくりました。一度は食べて「あっ、読んで」みてね！)

国民はレシピをもとに、おいしいカレーをつくる努力をしなくてはならない。



男女共同参画
社会カレーの
できあがり！

市長インタビュー

～あきる野の未来を語る～



新しくなった五日市駅。秋川駅周辺は大型店舗が建ち、新庁舎も建設中です。圏央道もまもなく開通するし、インターチェンジもできるらしい。あきる野の暮らしもずいぶん便利になっていく。

でもちょっと待って、女性行政はどうなっているの。それに、私たち市民の代表……市長さんてどんな人？

というわけで、行ってきました。聞いてきました。

本誌編集委員が、田中雅夫市長へ突撃インタビュー。

エフ・ウェイブの感想

丸山 男女共同参画の意識啓発の一環として創刊されたエフ・ウェイブは、現在3号まで発行しましたが、関心を持たれた記事や感想をお聞かせ下さい。

市長 創刊号の「エンパワーメント」という言葉が印象に残っていますね。この言葉の解説も気が利いて、実にいいキーワードだと思います。2号では「職業だってパラフリー」という言葉の使い方。男女とも仕事に境界線はないということ、端的に現代感覚で言い当てているところが、良かったと思います。内容も読みやすく、わかりやすかったですね。一人でも多くの市民に読んでほしいと思います。

女性行政・施策は

志村 では、市政への女性の参画についてお聞きします。審議会などの女性委員や庁内の管理職登用の状況はどうなのでしょう？

市長 市民の半数は女性であり、その声を市政に反映させること

は、とても大切なことです。ですから、委員会や審議会などの委員を選出する際は、10人中3人は女性を登用するように進めています。しかし、この人（女性）にお願いしても辞退されてしまったので……。中でも、農業や林業の分野では女性の人材が少ないのが現状ですね。

市の女性職員の管理職登用についてですが、推薦したい人がいても家庭生活との両立が難しいらしく、断られてしまうことがあります。現在、課長職が二人だけですが、新庁舎が完成し、新人事・組織となった折には、さらに女性管理職を実現させたいと考えています。性別にかかわらず、市民のためにその能力を発揮してもらいたいと思っています。

榎永 女性の社会進出にあたって、子育てや介護など、市として力を入れていく支援策はありますか？

市長 あきる野市は、他市に比べて保育行政が遅れているという声もあり、今後は積極的に取り組んでいくつもりです。

榎永 デイサービスセンターを、養沢地区にも作って欲しいという

声を聞きますが。

市長 自治会連合会からも、そういう要望があります。今後、関係機関とも検討していきたいと思っています。

水口 生涯学習支援や図書館の充実については、どうお考えですか。

市長 あきる野市は、生涯学習活動が実に盛んですね。特に、サークル活動での女性たちのパワーはすごい。今後も積極的に推進していきたいですね。

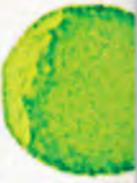
また、図書館についても、もっと充実させていきたいと考えています。もう一館増やしたいくらいですね。

沢田 あきる野独自の女性施策はありますか？

市長 これまでは、新庁舎建設や圏央道など、都市基盤整備といったハード面が多かったように思います。今後は、保育などの女性関連の行政を始めとしたソフト面を充実させていきたいと思っています。

ご家庭では

藤村 それでは話題を変えまして、ご家庭での市長の生活についてお聞きしたいのですが。



市長 子どもたちは皆独立して、今は妻と二人暮らしです。たまに、子どもが孫を連れてやって来る。やっぱり嬉しいもんですね。

水口 公務でお忙しいとは思いますが、家事はなさいますか。

市長 たまに茶碗を洗うとか、掃除をするくらいかな。なんだから、妻の領分を侵すような気がして、あまり台所には入らないんだけど。考え方が古いのかなー(笑)。

合併前の五日市町長の頃、東京都の女性問題協議会メンバーになった時に、知らなかったとはいえ、委員の樋口恵子さんの前で「女性は家で料理・洗濯をしていればいい」と言っていて、こっぴどく怒られてしまいました。それからです、男女平等については、一から勉強しましたね。もっとも、私より妻の方が進歩的で、外国のように、公式行事に妻を連れて行かないのは何故かしら?とか言いますね。

中山 奥様のお話が出たところで、奥様のお誕生日や結婚記念日を覚えていらっしゃいますか?

市長 えーと、誕生日は、たまたまこの間必要なことがあったから、覚えているけど、結婚記念日は…わからないなー(笑)。

志村 お誕生日には、プレゼントを用意されたりしますか?

市長 しない、しない。子供たちからは叱られるけど、そういう世代ではないから。

榎永 失礼ながら、もしも奥様に介護が必要になったらどうされますか?

市長 四十年連れ添って、わがままで荒っぽく生きてきた自分を支えてくれた妻には、とても感謝しています。でも、面と向かって言葉にはできないので、もし介護が必要になったら、出来るだけのことはしなくてはと思っています。

池田 子育てについて心がけていたことなどありますか?

市長 特別ないですね。若い頃は、消防団活動に一生懸命で、子どものことは、妻にまかせっきりでした。でも、五日市という厳しい自然環境がうまく働いたせいでしょうか、子どもたちは三人とも真っ直ぐに育ってくれました。

あきる野の未来

沢田 最後に、まちづくりの抱負についてお聞きしたいと思います。先ほど、市民の半分は女性と

おっしゃっていましたが、その声をどういうふうに市政に反映させようとお考えですか?

市長 まもなく福祉についての答申が出てくる予定です。まずは、それを検討することからになります。

女性の委員を入れて意見を聴く機会があっても、遠慮してしまつて発言しようとしなくて、ということが少なからずあるようです。どんなことを考えているのか、どういうことをしてほしいのか、遠慮しないでどんどん言ってほしいですね。

藤村 最後に、市長の考えるあきる野の将来の姿・ビジョンをお聞かせ下さい。

市長 「人と緑の新創造都市」というテーマを掲げて、長期総合計画の策定を進めています。秋川駅周辺の商業区域には近隣市町村からも多くの人が集まってきました。

人はいつも土と緑が恋しいものなのです。自然環境を大切にしたい、落ち着いた生活空間をつくり出せば、自ずと人が集まり活気のある街になるのではないのでしょうか。工業中心のまちづくりだけではなく、自然と共存するまちづくりが

必要です。



取材を終えて

庁舎建設と共に進められている新しいまちづくりへの政策を、熱く語られた田中市長。大柄で恰幅の良さもあって、一見怖そうな雰囲気でも緊張しましたが、ご家庭でのことを伺った折の、ちょっと照れくさそうな市長。夫としてまた一人の父親としての顔が垣間見られ、和やかにインタビューを終りました。

楽農は家族の支えから



近年の都市農業の厳しい状況下で、東京都内における酪農家の数は、年々減少しています。あきる野市でも30年ほど前には100件あった酪農家も、現在では16件とのこと。そのような中、柔軟な発想と先進的な取り組みで酪農を行っている雨間在住の平野正延さん、かずみさん夫妻に、お二人の仕事、家族そして夢についてお話を伺いました。

脱サラ

現在、ホルスタイン60頭余りを飼育する正延さんは、若い頃に会社員として1年ほど勤めていたことがあるそうです。しかし、会社という組織の中で、何か物足りなさを感じ始めた時、家業の酪農を意識したといいます。

「やればやるほど、酪農の面白

さに引かれ、通信教育を受けたり各地の研修にも参加しました。仲間と夜を徹して酪農談義をしたこともあったなあ。いつしか、言葉で表せないほど牛が好きになっていましたね」

そして、土地の制約があるこの地で酪農で生き残るためには、牛の能力を高め、効率的な経営が必要だと考えて、18年程前からパソコンによる個体管理や飼料計算を行うとともに、海外との研究交流を図ってきたそうです。

出会い

一方、その頃かずみさんは保育園の保育さん。大の動物好きのかずみさんですが、牛はほとんど見たことも、ましてや触った事などなかった。そんなかずみさんが、酪農という仕事に大きな夢を持った正延さんと出会い、そして結婚。当然、回りからは心配されたようです。かずみさん自身も不安がないうわけではありませんでした。

そんな時、母親の「どこにお嫁に行っても苦労はあるもの。頑張らなさい」という一言で、吹っ切れたそうです。

共に支え合い

はじめの頃、牛に追い回され、

牛乗り？されたことも。恐怖のあまり、助けを求めようにも声も出なかったとか…。しかし、正延さんがケガをして入院した折、全ての仕事がかずみさんに任せられた。搾乳、エサやり、掃除はもとより、さまざまな機械を使いこなし、故障も自分で直さなくてはならなかったそうです。そんな中で、子どもたちも学校から帰ると牛舎で乾草をほぐしたり、夕食を作ってくれたりと応援。

「とにかく家族皆がそれぞれ出来ることをしましたね。その間は本当に大変でしたけど。でも今思うと、夫の入院がきっかけで、女の自分にもできるという自信が付き、仕事に主体的に取り組むようになりました。」と明るく力強い。

「酪農は一日も休めない仕事です。なにしろ生きものを育てていますから。今は、酪農ヘルパー制度があり、休みが取れるようになり、夏休みも一泊だけ旅行に行けるようになりました。それまで、特に子どもが小さい頃には、旅行などに連れて行ってやれなかったもので、かわいそうでしたね。大きくなった今、子どもたちは、この家族旅行をととても楽しみにしています。小さい頃の分を取り返すか

のように：」「昨年のことですが、私たちの留守の時に急に牛が産気づき、17歳の長女が一人で子牛を取り上げたんですよ。やっぱり、酪農家の子ですね。」と夫妻は顔を見合せて笑っていました。

楽農は二人の夢

「今も、酪農を取り巻く情勢は、厳しいものがあります。そのためにも、地域でのネットワークは大切ですね。これからは、酪農イコール楽農にしていきたいですね。そして、地域の人たちに安全でおいしい牛乳を供給していきたいですね」と笑顔で語る正延さんとかずみさん。牛舎には、そんな二人を慕ってやってくる若い酪農家たちも多いようです。



取材を終えて

今日のお話と、新鮮でほんのり甘い牛乳をいただいて、心も体もポッカポカでした。

ジェンダーチェックの答え

- ・お茶くみやコピー取りは、女性だけにしかできない仕事ではありません。
- ・なぜ女性だけ制服なのでしょう？
- ・同じ労働者であるのに、職場の女性を「女の子」と呼ぶ男性。そして「女の子」扱いされる気楽さに甘えている女性。
- ・男女にかかわらず相手を傷つけたり、不愉快にさせてしまう言葉もセクシュアル・ハラスメントです。



ジェンダーチェック ~職場編~

良夫さんの職場をちょっと拝見!!



街角スポット 4

女と男が創り上げた

郷土の名品

五日市郷土館

春の香りに誘われて、武蔵五日市駅にやって来ました。西へ向かって20分程歩くと、五日市警察署北側に、今日の目的地「五日市郷土館」が見えてきます。

郷土館は、1階が常設展示室、2階は特別展示室と企画展示室が設けられています。

館内で特に興味をひいたのが、あきる野市の伝統産業の一つ「黒八丈」でした。今回は、この黒八丈にスポットを当て、歴史をひもといてみました。

時は、幕末から昭和の初め。黒八丈は、秋川及び平井川流域で生産されていた泥染めの高級織物で、肌ざわりが良いため、着物の襟などに使われ、その名の通り黒一色、別名「五日市」とも称されています。作業は専ら農業の合間に行われ、男は手を真っ黒にし

て生糸を染め、女は織手として労働を担っていました。黒八丈には嘘か真実か、とても面白い逸話が残されているのでご紹介しましょう。

ある夫婦が喧嘩をしました。ヒステリーをおこした女房が織物を泥田に投げたそう。仲直りした後、捨てた織物を取り出したところ、黒く染まって何回洗っても元の色には戻らなかった。

「は、夫婦喧嘩から?」とは、秋川流域から生まれた黒八丈は、人々のたゆまぬ努力により、立派な産業として発達してきます。しかし、化学繊維の出現など時代の流れには逆らえず、昭和16年を最後に残念ながら生産されなくなりました。

皆さんも、夫婦喧嘩の産物? をご覧になってはいかがでしょうか。「五日市郷土館」には黒八丈のほか、あきる野の歴史を知る資料がいっぱいあります。ぜひ、皆さんも訪れてみては。



※平成3年あきる野市伊奈の森博さんが、泥染めの黒八丈の技術を開発し、「五日市染め」として復活させました。



本



◆女が変わる男が変わる 100冊の本

富士谷あつ子・伊藤公雄 編 著
かもがわ出版

「本の本」とでも呼ぶべき本です。女性学、男性学などジェンダー論をめぐる本100冊について、10人の執筆者が短い解説とコメントを加えるというスタイルでまとめた本。

情報を探すための情報が必要な方へ。



◆女たちの「自分育て」

～輝きを増す生き方・働き方～

広岡守穂 著
講談社

男社会の“すきま”について、新しい働き方で自己実現と社会貢献に精を出す女たち。その実態に迫りつつ、真の「生きがい」の意味を探る。

※この本は、市内図書館で借られます。



report レポート



「女と男のライフフォーラム あきる野99」が、12月4日(土) ルピアホールにおいて開催されました。参加者は206名で、フォーラム始まって以来の人数とか。今回のフォーラムで4回目となりますが、例年公募による市民で組織した実行委員会の企画運営により、実施しているとのこと。

会場内は、あきる野の自然を取り入れた飾り付けや、手作りクッキーが用意されたテイタイムなど、暖かい雰囲気づくりがされていました。

◆第一部・覆面トーク

ついたての向こうで、家庭内の悩みを訴える男女二人の相談者に対して、それぞれの体験や思いを含めて、アドバイス?する男性陣と女性陣。TVのように、声を変えての戦いが火蓋を切り、夫のこと、妻のこと、姑のことなど、男の言い分vs女の言い分、ともに炸裂。両者互角に戦った後、フォーラム講師の樋口恵子さんによる講評で幕を閉じました。

◆第二部・基調講演

東京家政大学教授で、高齢社会をよくする女性の会代表の樋口恵子さんによる基調講演。

昨年6月に制定された男女共同参画社会基本法の経緯やその内容にふれ、制度のみならず、育児や介護など、日常生活においても不平等があつてはならないと力説されました。

人は時勢にのみ込まれ、時にその犠牲になることすらあるとしながらも、「時代の勢いを作るのは、その時代を生きる私たち一人ひとりの責任である」との言葉に、思わず熱いものがこみ上げてきたのは、私だけだったのでしょか。

あきる野市女性情報誌は、市役所・公民館・図書館・生涯学習センター・ファインプラザなど、公共施設に置いてあります。

編集後記

- ◆世の中の半分を担い、苦汁も共に。男性中心社会の息切れを感じる。 沢田美佐子
- ◆一人の意識が少し変われば、何かが変わる。それが*f・wave*の願い。 中山佳代子
- ◆号を重ね、私たちのチームワークもばっちり。*f・wave*も波に乗っています。 榎永 朝子
- ◆素敵な出会いと新しい発見。いろいろな体験ができてとってもHAPPY! 丸山きよみ
- ◆市長インタビューは緊張したけど、貴重な体験でした。ウフッ 水口 倫子
- ◆女性問題は自分と社会、そして身近な人との関係を見つめ、見直すこと。 池田真由美
- ◆女性情報誌という、改めて「女性」を考える機会に感謝! 志村美智子
- ◆この仕事の難しさも面白さも両方味わえました。まだまだ奥が深い... 藤村 美映

表紙/しまだ・しほ

この情報誌に関するご意見・ご感想、また、誌面で取り上げてほしいテーマなどを下記までお寄せ下さい。

Information

インフォメーション

ライフフォーラム2000 実行委員募集

テーマ決めから内容、講師との打ち合わせ、開催の準備や当日の運営などが主な仕事です。性別、年代を超え、いろんな人と知り合える特典付き。個性をいかした自分らしい生き方ができる社会は、あなたが行動することから始まります。



青少年健全育成及び女性問題講演会参加者募集

「いまどきの少年少女たちの性動向」
「大人たちはどう対応すべきか」
情報化が進む中、少年少女たちの性に関する意識や実態はどのように変化してきているのでしょうか? それに対して、大人たちはどのようにすべきか、一緒に考えてみましょう。
日時・平成12年3月26日(日)
2時~4時

場所・あきる野ルピアホール
講師・宮台真司さん
(東京都立大学助教授)



定員・200名(直接会場へ)
◆未就学児保育あり(要予約)
詳しくは社会教育課3015へ



エフ・ウェイブ 第4号 2000年3月発行

発行/あきる野市教育委員会社会教育部社会教育課
〒197-0814 あきる野市二宮350
Tel 042-558-1111 (内線3015)
企画・編集/あきる野市女性情報誌編集委員会

